

# 2024年3月期 第1四半期(FY2023 1Q) 決算概要

2023年8月2日

千代田化工建設株式会社



© Chiyoda Corporation 2023, All Rights Reserved.

## 登壇者



代表取締役会長兼社長  
榑田 雅和



代表取締役専務執行役員CFO  
出口 篤

エンジニアリング

## 社会の“かなえたい”を共創する

Our SDGs Materiality

**7** エネルギーを安全に  
そしてクリーンに



**9** 産業と技術革新の  
基盤をつくる



**13** 気候変動に  
具体的な対策を






SPERA Hydrogen  
Shaping the Future of Energy

1. ハイライト
2. 損益計算書
3. 利益増減分析
4. バランスシート
5. 受注高・受注残高
6. 主なトピックス

【付表1】完成工事高・受注残高内訳

【付表2】業績推移

1

CFOの出口です。

本日は電話会議にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日は、最初に、2024年3月期第1四半期算の概要について、私から説明させていただきます。その後、質疑応答は、社長の榊田と私でお受けいたします。

## 1. ハイライト

### 1. 事業収益力の一段の向上

前年同期比、増収増益。過去10年間での前期の最高益に続き、今期も順調なスタート。

### 2. 収益基盤の安定化

手持案件の着実な遂行、新規分野の積み上げ、リソース配分の最適化により、2期連続の高い安定した収益水準を目指す。

### 3. 新規事業分野の進捗

カーボンニュートラル分野を中心に、要素技術の社会実装に向け、実証・基本設計案件へ多数参画中、案件の創出へとつなげる。

それでは、2024年3月期第1四半期決算の概要について、資料に沿ってご説明申し上げます。

右下2ページ、「1. ハイライト」をご覧ください。

3点ご説明します。

1点目は、「事業収益力の一段の向上」です。

前年同期比で、増収増益となりました。過去10年間で最高益となった前期に続き、今期も順調なスタートを切りました。

2点目は、「収益基盤の安定化」です。

手持案件の着実な遂行と、新規分野の積み上げ、リソース配分の最適化により、2023年3月期、2024年3月期と2期連続で高い安定した収益水準を目指します。

3点目として、「新規事業分野の進捗」です。

カーボンニュートラル分野を中心に、要素技術の社会実装に向け、多数の実証・基本設計案件に多数参画しており、今後案件の創出につなげていきます。後ほど、主なトピックスでご説明いたします。

## 2. 損益計算書

(単位: 億円)

	FY2022 1Q	FY2023 1Q	増減	FY2023 通期予想	進捗率
完成工事高	757	1,294	537	4,500	29%
完成工事総利益	65	84	19	350	24%
完成工事総利益率	8.6%	6.5%	△2.1pt	7.8%	-
販売費・一般管理費	△28	△33	△6	△150	22%
営業利益	38	51	13	200	25%
経常利益	35	65	29	200	32%
純利益* <sup>1</sup>	22	49	27	150	33%
為替レート(円/米ドル)	137	145		130	

\*<sup>1</sup> 親会社株主に帰属する当期純利益



3

右下3ページ、「2. 損益計算書」をご覧ください。

本年度第1四半期の実績は、表の左から二つ目の濃い水色の部分です。  
左から三つ目が前年同期対比での増減です。  
通期予想は右から二つ目、通期予想に対する進捗率は一番右です。

冒頭の「1. ハイライト」でご説明した通り、前年同期比で、増収増益となりました。  
また、完成工事高、利益とも通期予想に向かって予定通り進捗しており、順調なスタートになっています。

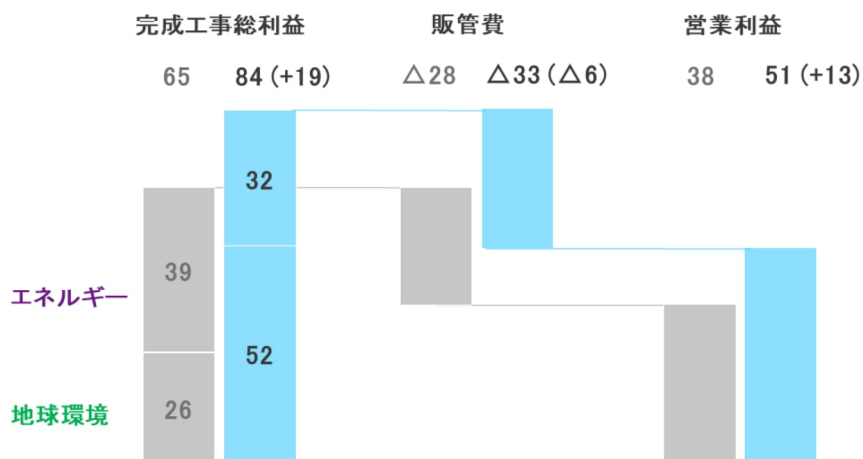
完成工事高は1,294億円、前年同期比537億円の増収、進捗率29%です。  
完成工事総利益は84億円、前年同期比19億円増加、進捗率は24%です。  
販売費・一般管理費は33億円、前年同期比6億円の増加です。  
営業利益は51億円、前年同期比13億円増加、進捗率25%です。  
経常利益は65億円、前年同期比29億円増加、進捗率32%です。  
以上の結果、純利益は49億円で、前年同期比2倍以上の27億円増加となり、  
進捗率は33%です。

### 3. 利益増減分析

FY2022 1Q

(単位: 億円)

FY2023 1Q



( )内: FY2022 1Q比増減

CHIYODA CORPORATION

4

右下4ページ、「3. 利益増減分析」をご覧ください。

完成工事総利益、販管費、営業利益について、本年度第1四半期と前年同期の実績を対比して示しております。水色の棒グラフが本年度第1四半期の実績、灰色の棒グラフが前年同期の実績です。

完成工事総利益は、先ほどご説明した通り84億円で、前年同期比19億円の増加です。事業分野別では、エネルギー分野32億円、地球環境分野52億円で、地球環境分野が大きく伸びています。

販管費は33億円で、先ほどご説明した通り、前年同期比では6億円の増加ですが、通期見込み150億円に対しては22%の費消と、適切にコントロールしています。

この結果、営業利益は51億円、前年同期比13億円の増加となっています。

## 4. バランスシート

(単位: 億円)

	FY2022 4Q	FY2023 1Q	増減		FY2022 4Q	FY2023 1Q	増減
流動資産	3,830	3,793	△36	流動負債	3,563	3,410	△152
現金・預金等	612	705	93	営業負債* <sup>3</sup>	2,927	2,855	△72
営業資産* <sup>1</sup>	586	649	62	工事損失引当金	279	248	△31
JV持分資産* <sup>2</sup>	1,616	1,645	28	固定負債	280	300	20
固定資産	236	234	△2	純資産	223	317	94
総資産	4,066	4,027	△38	負債・純資産	4,066	4,027	△38
				自己資本	222	316	94
				自己資本比率	5.5%	7.8%	+2.4pt

\*<sup>1</sup> 営業資産=受取手形+完成工事未収入金及び契約資産+未成工事支出金

\*<sup>2</sup> JV持分資産=ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金

\*<sup>3</sup> 営業負債=支払手形+工事未払金+契約負債(未成工事受入金)



5

右下5ページ、「4. バランスシート」をご覧ください。

左側の一番下、総資産は、前年度末4,066億円に対して、本年度第1四半期4,027億円と略同金額です。

資産・負債項目についても、手持ち案件の進捗に伴う金額の増減はありますが、大きな変動はありません。

表の右下、自己資本は、前年度末比94億円の増加で、300億円台まで回復し、自己資本比率は7.8%に改善しております。

## 5. 受注高・受注残高

(単位: 億円)

	FY2023 1Q 受注高	FY2023 1Q 受注残高
エネルギー分野	91	8,273
地球環境分野	254	3,013
合計	344	11,286

### 【受注残高主要案件】

	1,000億円以上	50億円以上
エネルギー分野	カタール・NFE LNG	米国ゴールデンパスLNG インドネシア・タンゲーLNG
地球環境分野	インドネシア銅製錬	CO <sub>2</sub> メタネーション設備 バイオ医薬品原薬製造工場 合成燃料実証設備

右下6ページ、「5. 受注高・受注残高」をご覧ください。

第1四半期の受注高は344億円、受注残高は1兆1,286億円を確保しています。

受注残高の主要案件は下表をご参照ください。



## 6-1. 主なトピックス - 海外遂行中案件 -

### インドネシア・タンゲーLNG

建設工事終盤、完工に向けて遂行中。



Courtesy of BP Berai Ltd.

### 米国・ゴールデンパスLNG

建設工事が本格化し、進捗中。



Courtesy of Golden Pass Products, LLC

### カタール・NFE LNG

設計・調達を遂行、本設プラントの土木工事が本格化。



Courtesy of QatarEnergy

### インドネシア銅製錬

設計・調達遂行中、建設工事が本格化。



Courtesy of P.T. Freeport Indonesia

続きまして、「主なトピックス」を紹介します。  
右下7ページは、「海外遂行中案件」です。

4案件をご説明しますが、いずれも概ね順調に進捗しています。

インドネシア・タンゲーLNGは本年の完工を目指して建設工事の最終盤です。

米国・ゴールデンパスLNGは建設工事が進行中です。

カタールNFE LNGは、設計・調達業務に加えて、本設プラントの土木工事が本格化しています。

インドネシア銅製錬プロジェクトも建設工事が本格化しております。



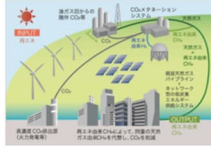
## 6-2. 主なトピックス - カーボンニュートラル分野 新規案件 -

カーボンニュートラル分野を中心に、技術の社会実装に向けた**実証・基本設計案件へ多数参画**。  
実証段階から顧客と伴走することで知見を蓄積し、案件の創出、受注につなげる。

### 1 CO<sub>2</sub>メタネーション設備 建設工事

[顧客: (株)INPEX]

- ✓ メタネーション技術\*1は、ガスの脱炭素化の鍵。
- ✓ 世界最大級の規模。  
(合成メタン製造能力:  
約400Nm<sup>3</sup>-CO<sub>2</sub>/h)



※ 顧客が、NEDO\*2の助成\*3採択され実施する技術開発事業。

<出典> 株式会社INPEX  
2023年6月16日プレスリリース

### 2 1BD\*3合成燃料実証設備 建設工事

[顧客: ENEOS(株)]

- ✓ 水素とCO<sub>2</sub>を原料とした合成燃料製造プロセスの早期の技術確立に貢献。
- ✓ 実証プラントのEPCを遂行。



※ 顧客が、NEDOのG基金事業\*4に採択され実施する事業。

<出典> ENEOS株式会社  
2022年4月19日プレスリリース

### 3 CO<sub>2</sub>→CO変換プラント 基本設計業務

[顧客: 積水化学工業(株)]

- ✓ CO<sub>2</sub>をCO(一酸化炭素)へ90%以上の高効率で変換する技術を用いたCO<sub>2</sub>処理プラントの設計。

※ 顧客が、NEDOのG基金事業\*4に採択され実施する事業。

### 4 大規模アンモニア分解触媒の技術開発

[共同事業者: (株)JERA、(株)日本触媒]

- ✓ 水素キャリアとしてアンモニアの利活用に向けて、競争力あるアンモニア分解技術の確立を目指す。

※ NEDOの助成\*4に採択され実施する触媒開発事業。

\*1 CO<sub>2</sub>と水素から「メタン」を合成する技術

\*2 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

\*3 Barrel per Day

\*4 グリーンイノベーション基金事業

\*5 競争的な水素サプライチェーン構築に向けた技術開発事業



右下8ページ、「**カーボンニュートラル分野の新規案件**」についてご説明します。

冒頭の「1. ハイライト」でご説明した通り、カーボンニュートラル分野を中心に、要素技術の社会実装に向けた**実証・基本設計案件**に多数参画しております。今後、**実証段階**から顧客と伴走することで知見を蓄積し、**案件の創出、受注**につなげていきます。

その中で、トピックスとして、直近に受注、遂行中の4案件をご説明します。

左上1番目、CO<sub>2</sub>メタネーション設備建設工事、顧客はINPEXです。CO<sub>2</sub>と水素からメタンを合成する「メタネーション」は、ガスの脱炭素化において鍵となる技術です。建設工事が開始されたプロジェクトとしては、世界最大級の規模です。

右上2番目、合成燃料実証設備の建設工事、顧客はENEOSです。

水素とCO<sub>2</sub>を原料とした合成燃料製造プロセスの早期技術確立を目指すものです。実証設備の建設を通して、当該技術の早期の社会実装に貢献していきます。

左下3番目、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)をCO(一酸化炭素)に変換するプラントの基本設計業務、顧客は積水化学工業です。温室効果ガスでない一酸化炭素は、カーボンニュートラルに向けた各種技術の展開において重要な原料の一つです。積水化学工業が開発する二酸化炭素を一酸化炭素へ90%以上の高効率で変換する画期的なCO製造プロセスの社会実装に向けて、積極的に協力を行っていきます。

右下4番目、JERA、日本触媒と共同で、アンモニアを水素エネルギーキャリアとして利活用するため、競争力があるアンモニア分解触媒の技術開発を推進します。

今後、スケールアップや技術の確立により社会実装化に貢献するとともに、顧客と一体となり案件を創出し、多角的に事業を展開して参ります。

## 【付表1】完成工事高・受注残高内訳

(単位: 億円)

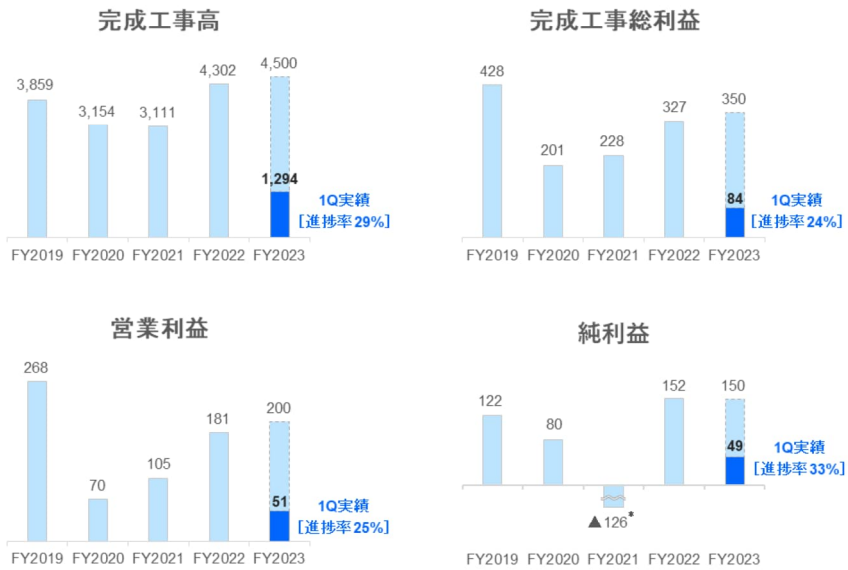
FY2023 1Q 完成工事高			FY2023 1Q 受注残高		
<b>【分野】</b>			<b>【分野】</b>		
エネルギー	783	61%	エネルギー	8,273	73%
■ LNG・その他ガス関係	718	55%	■ LNG・その他ガス関係	8,009	71%
■ 石油・石油化学	65	5%	■ 石油・石油化学	264	2%
地球環境	511	39%	地球環境	3,013	27%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	76	6%	■ 医薬・生化学・一般化学関係	361	3%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	435	34%	■ 環境・新エネルギー・インフラ他	2,652	24%
合計	1,294	100%	合計	11,286	100%
<b>【地域】</b>			<b>【地域】</b>		
海外	1,130	87%	海外	10,257	91%
■ 中近東・アフリカ	503	39%	■ 中近東・アフリカ	6,894	61%
■ 北中南米	141	11%	■ 北中南米	867	8%
■ アジア・オセアニア	486	38%	■ アジア・オセアニア	2,495	22%
■ その他海外	0	0%	■ その他海外	0	0%
■ 国内	164	13%	■ 国内	1,029	9%
合計	1,294	100%	合計	11,286	100%

次のスライド、右下9ページ、10ページは付表です。

右下9ページは、本年度第1四半期の完成工事高、受注残高の分野別、地域別の内訳です。

## 【付表2】業績推移

(単位: 億円)



\*特別損失 ▲204億円含む(顧客との和解等によるプロジェクト関連損失)



10

次の右下10ページは、2020年3月期以降、過去4年間の業績推移、及び本年度の通期予想と第1四半期の進捗をグラフで一覧にしています。

以上で決算概要の説明を終わります。

## *Energy and Environment in Harmony*



千代田化工建設株式会社 総務部IR・広報・サステナビリティ推進セクション <https://www.chiyodacorp.com/jp/>

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

© Chiyoda Corporation 2023, All Rights Reserved.